

熊本市の性感染症(STI)感染情報

2026.2作成

性感染症 (STI) とは 性行為によって感染する病気の事です。感染しても症状に気付かないことが多く、他の人に感染させたり、症状がひどくなって感染がわかるケースもあります。また、よくなっても予防しなければ繰り返し感染することもあります。近年、全国的に報告数が増加しています。熊本市も同様に増加しています。

◆ 熊本市保健所に届けられるSTIは次のようになっています

※保健所への届出の必要のないSTIもたくさんあります。



全ての医療機関が感染者を報告する
性感染症 (全数報告)

- ・AIDS/HIV(後天性免疫不全症候群)
- ・梅毒



決められた医療機関が感染者数のみ
報告する性感染症 (定点報告)

- ・クラミジア感染症
- ・性器ヘルペスウイルス感染症
- ・尖圭コンジローマ
- ・淋菌感染症



◆ 熊本市におけるSTI発生状況 ※AIDS/HIVについては熊本県の報告数。

【AIDS (後天性免疫不全症候群) /HIV】

熊本県AIDS/HIV患者感染者報告数・全国報告数 年次推移(診断日基準)



2025年までの熊本県の累計報告数は、**患者105人、感染者147人**の計**252人**となりました。

熊本県では、2022年に激増したあと、いったん減少しましたが、再度増えつつあります。

また、エイズを発症してからHIV感染が判明する「いきなりエイズ」の割合が、全国平均(3割程度)と比べて高く(4割強程度)なっています。

注:HIV≠AIDS HIVはAIDS(後天性免疫不全症候群)の原因ウイルスのなまえです。

熊本市保健所ではHIV(エイズ)検査相談を予約制で行っています。

詳しくは⇒二次元バーコードから



裏へつづく



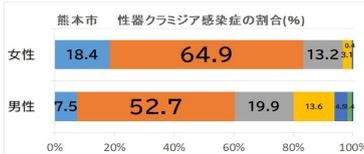
◆ 熊本市におけるSTI発生状況

【梅毒】

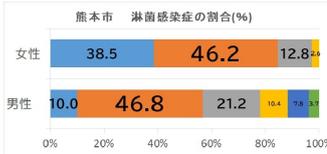


2025年の全国の梅毒の報告数が、全数報告となった2011年以降4番目に多い**13,196人(速報値:変動することがあります)**となりました。2025年の熊本市の報告数は**133人**となり、全体の報告数は昨年より僅かに減少していますが、**若い世代の感染の勢いは止まりません!!**

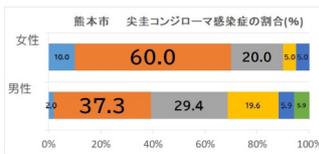
【クラミジア感染症】



【淋菌感染症】



【尖圭コンジローマ】

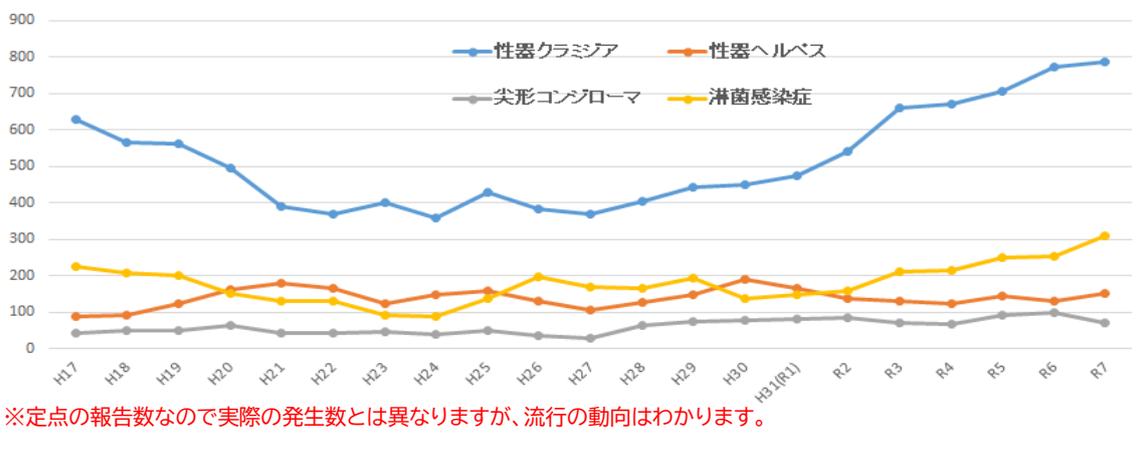


【性器ヘルペス】



■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70歳≒

熊本市性感染症(定点把握)の動向

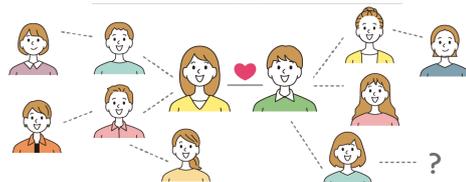


熊本市で報告されている性感染症の動きを見ると、性器クラミジアと淋菌感染症は、ここ数年また増えてきています。令和7年は、この20年の中でも多い年となり、特に若い世代で多い感染症です。

一方で、性器ヘルペスや尖圭コンジローマは、年ごとの差はありますが、長い目で見ると大きく増えたり減ったりはしていません。

STIは症状がわかりにくい、完治しても何度も感染する、自然治癒しないなどやっかいな感染症です。

過去と繋がるSTI



リスクの高い性行為はダメ
不特定多数との性行為
コンドームなしの性行為

性感染症についてのご相談はこちらへ

熊本市保険所感染症予防課 TEL096-364-3189